

事業名 CD	0103010210	ことぶき長寿記念事業
細分化した事業名		長寿祝金支給
事業担当課室 CD	200300	福祉課
		整理コード

〈事務事業の位置づけ〉

第6次長期総合計画での目的体系	大項目	誰もが安心して暮らせるまちづくり
	中項目	地域の絆を深める福祉社会の実現
	小項目	高齢者福祉の充実
関連する個別計画等		根拠条例等 蕪崎市長寿祝金支給条例
関連する事業	敬老祝金支給事業	

〈事務事業の概要〉

事業の目的 (何のためにするのか)	百歳を迎えた高齢者の長寿を祝福し、長年の社会貢献に感謝する。また、長寿祝いを目指している高齢者への長寿に対する意識づけ。
事業の対象 (誰・何を対象にするか)	蕪崎市に引き続き10年以上居住し、満100歳に達した者(ただし福祉施設の入所者は除く)
これまでの改善経過	平成19年度より支給金額の見直し。100歳祝金：30万円、翌年以降10万円
事業の手段 (どんなやり方(手法)で)	<p>〈実施・運営方法〉 ■市 □委託 □補助金 □その他()</p> <p>誕生日に祝金を支給する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支給場所 長寿者宅 ・祝金額 30万円 翌年以降10万円
事業の成果 (どのような状態にしたいのか) (どのような効果を得るのか)	長年の社会貢献を感謝するとともに、労をねぎらう。また、家族等とともに祝うことにより、敬老意識の啓発、生活意欲の向上に繋げる。

〈投入費用及び従事職員の推移〉

		20年度		21年度		22年度	
A	事業費 (千円)	1,000		1,500		1,800	
財源内訳	国庫支出金	0		0		0	
	県支出金	0		0		0	
	市債	0		0		0	
	その他	0		0		0	
	一般財源	1,000		1,500		1,800	
B	担当職員数(非常勤 職員E) (人)	0.00	0.08	0.00	0.08	0.08	
C	人件費(平均人件費×E) (千円)	553		546		538	
D	総事業費(A+C) (千円)	1,553		2,046		2,338	
*参考	H22)市民1人当りの事業コスト	73 円		H22)市民1人当りの行政サービス費用		599,027 円	

注1)担当職員数には、1年間に当該事業に携わった職員数(職員と非常勤嘱託職員を区分)を他事業と按分して記載してあります。

注2)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した、20年度(6,909千円)、21年度(6,823千円)、22年度(6,719千円)を使用しています。

注3)一般財源とは用途の制限のない財源で、市税(市民税・固定資産税など)、地方交付税(市町村均衡を図るための交付金)などを言います。

〈事業を数字で分析〉 この欄では、事業の目指すべき方向を分りやすく示すため、数値指標を設定し実績数値を記入しています

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			20年度	21年度	22年度
活動指標	支給対象者数	(人)	4	7	8
	支給額	(円)	1,000,000	1,500,000	1,800,000
成果指標	支給率	訪問件数/対象者数 (%) (8件/8人)	100	100	100
効率指標	1人当たりのコスト	総事業費/対象者数 (円) (2,338,000円/8人)	418,667	292,285	292,250

〈事業を自己評価〉

妥当性 (事業の手段・活動は妥当ですか)	<input type="checkbox"/> A 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない 長寿を祝う主目的の為に事業の意義は妥当であるが、社会情勢を踏まえた中での祝金額の妥当性には問題有。検討が必要と考える。		
成果 (意図した成果が上がっていますか)	<input type="checkbox"/> A 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input type="checkbox"/> C 上がっていない 長寿者の生活意欲の向上につながり、励みになる。		
効率性 (コストを見て効率的ですか)	<input type="checkbox"/> A 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ効率的である <input type="checkbox"/> C 効率的でない 長寿を祝う行為が事業目的なので、人件費を含むコストで効果は出せない。		
総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input checked="" type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input type="checkbox"/> C 期待以下の達成		
今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 重点化 (コストを集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 手段の改善 (実施主体や実施の手段を代える) <input type="checkbox"/> 効率化 (結果単位あたりのコストを下げる) <input checked="" type="checkbox"/> 簡素化 (事業の規模や内容を縮小する) <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合 (他の事業と統合する、または廃止する) <input type="checkbox"/> 現行どおり		
改善・改革案	改善・改革の概要・方向性 (いつまでに、どういう形で具体化するのか)		
	(1) 中長期的 高齢化社会にあって、社会情勢を踏まえながら対象及び目的の絞り込み、実施方法の改善等、制度のあり方を検討していく。	(2) 24年度 23年度改定維持	(3) 23年度 100歳に達した方のみ10万円(福祉施設入所者は除く)
	22年度の改善計画		
	22年度の改善結果		
市民(地域)や民間、他官庁との役割分担(市民との協働の視点などから考えられること)			
課長所見	平成23年度に事業内容の見直し、改善を実施した。		

事業名 CD	0103010210	ことぶき長寿記念事業
細分化した事業名	蕪崎市敬老祝金支給	
事業担当課室 CD	200300	福祉課
整理コード		

〈事務事業の位置づけ〉

第6次長期総合計画での目的体系	大項目	誰もが安心して暮らせるまちづくり	
	中項目	地域の絆を深める福祉社会の実現	
	小項目	高齢者福祉の充実	
関連する個別計画等	長寿祝金支給事業	根拠条例等	蕪崎市敬老祝金支給条例
関連する事業	長寿祝金支給事業		

〈事務事業の概要〉

事業の目的 (何のためにするのか)	国民の祝日である「敬老の日」にちなみ、高齢者福祉と敬老精神の高揚を図るため、長寿を祝福し敬老の意を表す。
事業の対象 (誰・何を対象にするか)	9月15日(基準日)現在において本市に引き続き6箇月以上住所を有するもので、80歳以上の者
これまでの改善経過	15年度 記念品支給の廃止 16年度 対象年齢の改正
事業の手段 (どんなやり方(手法)で)	<p>〈実施・運営方法〉 ■市 □委託 □補助金 □その他()</p> <p>高齢者に祝金を贈り、長寿を祝う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基準日において80歳～87歳高齢者(金3,000円) ・基準日において88歳以上高齢者(金5,000円) <p>*住民基本データを基に名簿を作成し、民生委員に支給依頼</p>
事業の成果 (どのような状態にしたいのか) (どのような効果を得るのか)	長年にわたり地域社会に貢献してきた高齢者を敬愛し、長寿を祝う。 民生委員に支給を依頼しているため、担当地域の80歳以上の高齢者について把握でき、併せて安否確認等も行うため、今後の活動の情報とすることができる。

〈投入費用及び従事職員の推移〉

		20年度	21年度	22年度
A	事業費 (千円)	7,635	7,938	8,101
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	7,635	7,938	8,101
B	担当職員数(非常勤 職員E) (人)	0.00	0.08	0.08
C	人件費(平均人件費×E) (千円)	553	546	538
D	総事業費(A+C) (千円)	8,188	8,484	8,639
*参考	H22)市民1人当りの事業コスト	270 円	H22)市民1人当りの行政サービス費用	599,027 円

注1)担当職員数には、1年間に当該事業に携わった職員数(職員と非常勤嘱託職員を区分)を他事業と按分して記載してあります。

注2)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した、20年度(6,909千円)、21年度(6,823千円)、22年度(6,719千円)を使用しています。

注3)一般財源とは用途の制限のない財源で、市税(市民税・固定資産税など)、地方交付税(市町村均衡を図るための交付金)などを言います。

〈事業を数字で分析〉 この欄では、事業の目指すべき方向を分りやすく示すため、数値指標を設定し実績数値を記入しています

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			20年度	21年度	22年度
活動指標	受給者数	総数 80～87才（3千円対象者） 88才以上（5千円対象者）	2,174 1,619 555	2,236 1,622 614	2,283 1,657 626
	支給金額		7,635,000	7,938,000	8,101,000
成果指標	支給率	受給者数／対象者数（％） (2,283人／2,283人)	100	100	100
効率指標	1人当たりのコスト (算出式数値)	総事業費／対象者数（円） (8,639,000円／2,283人)	3,766	3,794	3,784

〈事業を自己評価〉

妥当性 (事業の手段・活動は妥当ですか)	<input type="checkbox"/> A 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない 長寿者に対し敬愛の意を表し祝金を支給することは、高齢者にとって励みとなる。また、民生委員が訪問し祝金を支給することにより、各地区における高齢者の生活状況の把握にもつながり事業手段としては妥当と考える。	
成果 (意図した成果が上がっていますか)	<input type="checkbox"/> A 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input type="checkbox"/> C 上がっていない 支給率は毎年100%の成果をあげている。	
効率性 (コストを見て効率的ですか)	<input type="checkbox"/> A 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ効率的である <input type="checkbox"/> C 効率的でない 高齢者が増加する中であっても、祝金を民生委員から支給することにより人的コストに関しては抑えられている。しかし、長寿を祝うことが目的となるため、効率性をもって効果を出すことは適当とはいえない。	
総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input checked="" type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input type="checkbox"/> C 期待以下の達成	
今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 重点化（コストを集中的に投入する） <input type="checkbox"/> 手段の改善（実施主体や実施の手段を代える） <input type="checkbox"/> 効率化（結果単位あたりのコストを下げる） <input checked="" type="checkbox"/> 簡素化（事業の規模や内容を縮小する） <input type="checkbox"/> 統廃合（他の事業と統合する、または廃止する） <input type="checkbox"/> 現行どおり	
改善・改革案	改善・改革の概要・方向性（いつまでに、どういう形で具体化するのか）	
	(1) 中長期的 高齢化社会にあって、社会情勢を踏まえながら改正の方向性や制度のあり方を検討していく。	(2) 24年度 23年度改定維持
	(3) 23年度 77歳と88歳に支給 77歳に5,000円 88歳に10,000円 平成23年度のみ経過措置として 78歳—80歳に5,000円支給	
22年度の改善計画		
22年度の改善結果		
市民(地域)や民間、他官庁との役割分担(市民との協働の視点などから考えられること) 祝金の支給については、安否確認を兼ね民生委員に依頼しているが、訪問支給に限らずイベントの実施時に支給する等地域住民との交流を図る機会にするなど、支給方法の可能性を検討できないか。		
課長所見	平成23年度に事業内容の見直し、改善を実施した。	